AMAMIZU CITY, Sumida, Tokyo

すみだ雨水再発見

―雨と暮らしと文化の散歩道―

雨水利用の先進都市・墨田区は、昔から雨とのかかわりがとても深い地域でした。雨を乞い、畏れ、敬い、そして楽しむ。江戸時代、人々と雨との多様な付き合いが、この地に豊かな雨の文化を生み出しました。雨水利用マップを片手に、すみだの雨水利用と雨にまつわる歴史スポットを歩いてみませんか。

雨水タンク

「都市のミニダム」として、墨田区には区の施設や学校、ビルや一般家庭などに雨水タンクが増えています。ためた雨水は、植木への散水や道路への打ち水など、まちにうるおいを取り戻すとともに、災害時には貴重な水源となります。

● 小さな雨水タンク

一般家庭に設置される容量200リットル程度（浴槽1杯分）の雨水タンクです。材質はポリエチレンやステンレスなどで出来ています。
2023年3月末現在 316基（助成実績件数）

● 大きな雨水タンク

ビルやマンションの地下の空間（地中梁）を利用した、大規模なコンクリート製雨水タンクの代表箇所です。
2023年3月末現在 420基

文 小さな雨水タンクのある学校
文 大きな雨水タンクと小さな雨水タンクのある学校

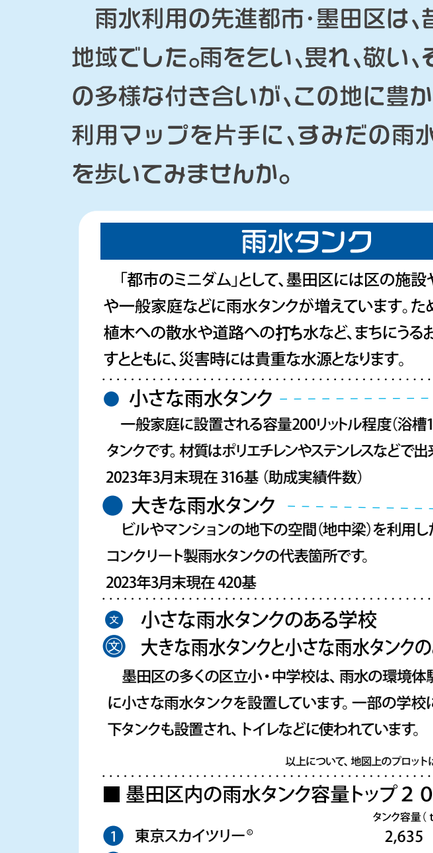
墨田区の多くの区立小・中学校は、雨水の環境体験学習のために小さな雨水タンクを設置しています。一部の学校には大きな地下タンクも設置され、トイレなどに使われています。

以上について、地図上のプロットは2023年3月現在

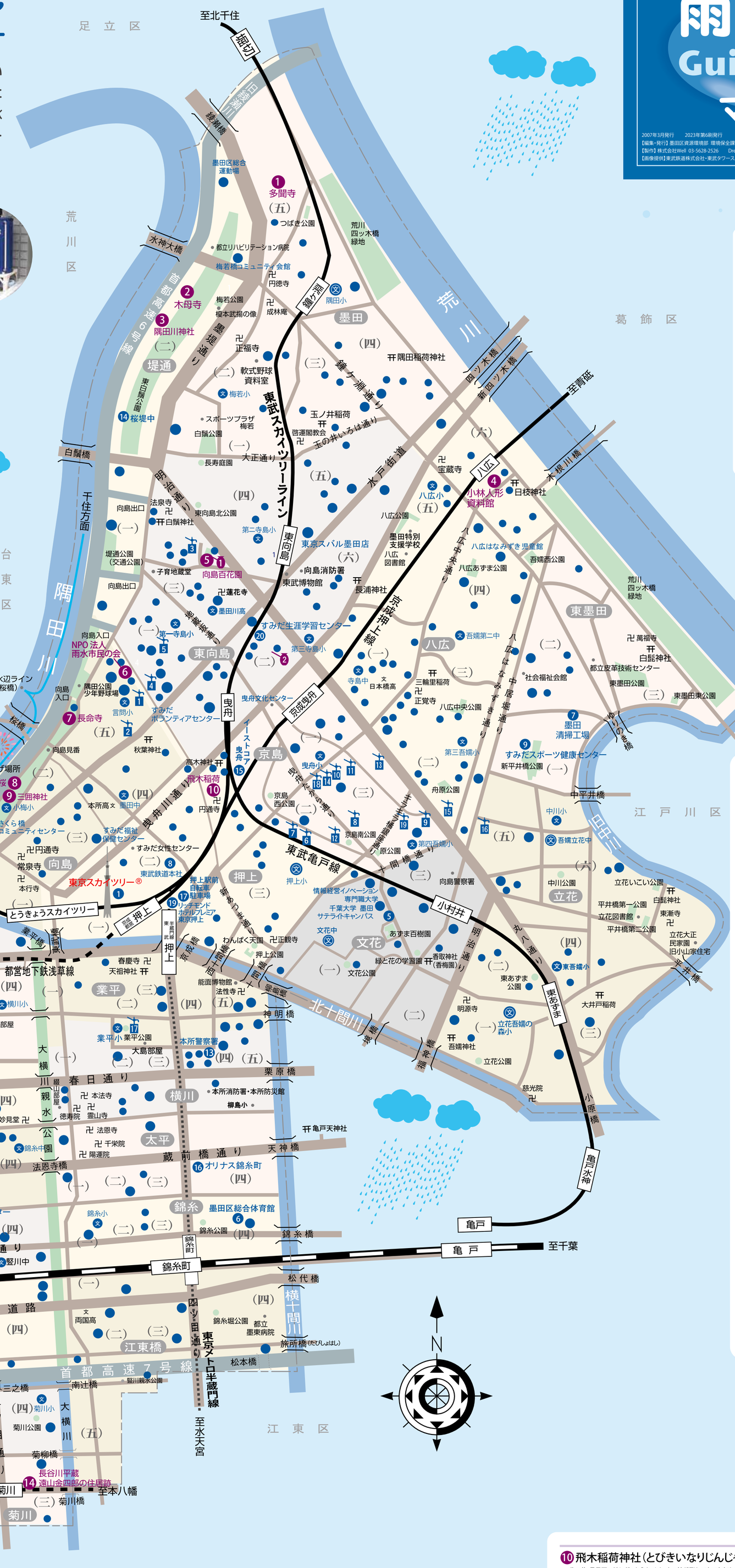
■ 墨田区内の雨水タンク容量トップ２０

		タンク容量（t）	
1	東京スカイツリー®	2,635	民
2	東京都江戸東京博物館	2,500	公
3	国技館	1,000	民
4	墨田区役所	1,000	公
5	千葉大学 墨田サテライトキャンパス	787	民
6	墨田区総合体育館	696	公
7	墨田清掃工場	530	公
8	東武鉄道本社ビル	466	民
9	すみだスポーツ健康センター	360	公
10	凸版印刷（株）本所ＧＣビル	356	民
11	国際ファッションセンター	300	民
12	ＹＫＫ　Ｒ＆Ｄセンター	280	民
13	本所警察署	265	公
14	桜堤中学校	262	公
15	イーストコア曳舟	260	民
16	オリナス錦糸町	239	民
17	押上駅前自転車駐車場	228	公
18	両国屋内プール	220	公
19	リッチモンドホテルプレミア東京押上	219	民
20	すみだ生涯学習センター	210	公

公：公共的施設　　民：民間施設



東京23区略図



すみだの 雨水利用 Guide & Map マップ編

（あまみずりよう）

2007年3月発行　　2023年第6刷発行
【編集・発行】墨田区資源環境部 環境保全課　03-5608-1111（代表）
【製作】株式会社Well 03-5628-2526　　Drected by Eiji H
【画像提供】東武鉄道株式会社・東武タワースカイツリー株式会社

路地琴［ろじきん］

路地琴は上からひしゃくで水をかけると壺の中で水滴の音が反響して、キーン、コーンと美しい音色を奏でます。

1 東向島3-18（向島百花園）
2 東向島2-41-20
3 石原3-30-8（御谷湯）

路地尊［ろじそん］

路地尊とは、路地の安全を守るシンボルです。災害時には避難路になり、通常は地域の広場になる路地を尊ぼうという考えからその名がつけられました。外観は様々ですが、基本的に手押しポンプで地下にためた雨水をくみ出すシステムになっています。

1 第２号基
2 有季園
3 会古路地
4 はとほっと
5 防災広場
6 京島2丁目第3コミュニティ住宅
7 京島2丁目第4コミュニティ住宅
8 ポケットパークたから一休
9 京島3丁目第4コミュニティ住宅
10 京島3丁目第5コミュニティ住宅
11 ポケットパークさくら一休
12 京島2丁目第5コミュニティ住宅
13 子ぞう一休
14 京島3丁目第6コミュニティ住宅
15 八広2丁目コミュニティ住宅
16 立花5丁目コミュニティ住宅
17 業平3丁目集会所
18 京島3丁目第7コミュニティ住宅
19 京島3丁目第8コミュニティ住宅

雨の歴史スポット

〈出典・参考文献〉墨田区史・東京名所図会

1「雨水寺」・多聞寺（たもんじ）

瓦には水という文字が入っています。お寺の裏には1トンの雨水タンクが11個並べられ、参拝客のトイレに使われています。墓参の水もためた雨水を使います。山門は江戸中期（18世紀後半）に建造された区内最古の木造建造物で、隅田川七福神の一つ『毘沙門天』がまつってあります。

2「梅若の涙雨」・木母寺（もくぼじ）

時は平安中期、京で人買いにかどわかされた12歳の梅若丸が、東北への旅の途中で病に倒れ、４月１５日（旧暦３月１５日）に隅田川のほとりで亡くなりました。翌年の同日、わが子を尋ねて来た母親がそのことを知り涙にくれるという、かの有名な謡曲「隅田川」の木母寺の梅若伝説です。

3「水神社」の隅田川神社

治承4年（1180年）、平家追討の旗を掲げた源頼朝が、この地に水神の霊験を感じて社殿を造営したといわれています。川中に大亀が浮かび、その上に水神が出現したという話もあり、狛犬の替わりに亀の石造が置かれています。ここは、隅田川の増水にあっても沈むことがなく、「浮島」の名もあります。

4 荒川放水路と小林人形資料館

かつて隅田川の上流は荒川と呼ばれ、昔から氾濫を繰り返してきました。明治４３年（1910年）の大洪水では墨田区のほぼ全域が水没し、これを契機に荒川放水路の工事が始まりました。工事に伴い、多くの民家が移転を余儀なくされました。小林人形資料館の母屋もその一つです。放水路は20年の長い年月をかけて完成しました。それが現在の荒川です。

5 向島百花園の水塚

文化元年（1804年）、骨董商を営んでいた佐原鞠塢が開いた庶民的花園です。ここの御成座敷が小高いのは、池を掘って土盛りしてできたからですが、これは「水塚」といわれ隅田川の洪水対策がねらいでした。向島百花園には、隅田川七福神の『福禄寿』がまつられています。

6 NPO 法人 雨水市民の会

「NPO 法人 雨水市民の会」の事務所が置かれ、生命と文化を育む雨に学び、雨を活かすことが当たり前の社会を実現していくために、さまざまな活動を行っています。

7 長命寺と井戸水

三代将軍家光が鷹狩りに来た際、突然の腹痛に見舞われ、ここの井戸水で薬を服用したところたちどころに治まったことから、家光はこの井戸に長命水の名を与え、寺の名も長命寺となりました。ここには隅田川七福神の『弁財天』がまつられており、江戸時代から伝わる桜もちでも有名です。

8 墨堤と桜

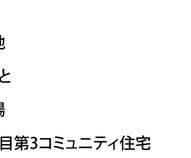
墨堤の桜は享保２年（1717年）、八代将軍吉宗による植樹がその始まりです。その背景には、隅田川の土手を花見客で踏み固め、洪水に備えたともいわれています。昔は春になるとスミレとレンゲがそれはそれは壮観で、船から見る桜並木は絶景だったそうです。

9 雨乞い神社の三囲神社（みめぐりじんじゃ）

時は元禄、江戸は渇水に見舞われ農民は雨を待ち焦がれていました。そこに芭蕉の弟子、宝井其角が通りかかり、「夕立や田をみめぐりの神ならば」と一句詠んだところ、翌日には大雨が降ったことから、三囲神社は雨乞い神社として有名です。ここは、隅田川七福神の南の出発点で、『恵比寿神』、『大黒神』がまつられています。

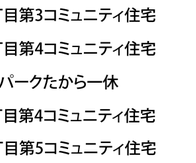
10 飛木稲荷神社（とびきいなりじんじゃ）

その昔、暴風雨の時にどこからかイチョウの枝が飛んできてささり、根付いたことからこの名前がつきました。神木であるここの大イチョウの樹齢は約5～600年といわれています。東京大空襲で焼けましたが命をつなぎ、毎年夏にはたくさんの青々とした葉をつけています。ここには防火用水としての天水桶も設置されています。



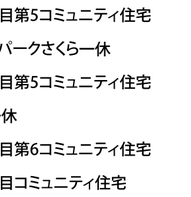
11 御谷湯（みこくゆ）

以前から雨水利用を積極的に取り入れています。屋根に降った雨を5.6ｔの雨水タンクにためて、トイレに利用しています。敷地内にはリサイクル資源のストックヤードと、雨水の音色が楽しめる水琴窟があります。区内でも珍しい天然温泉の銭湯です。



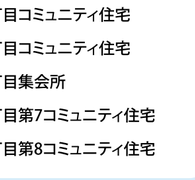
12 北斎と御竹蔵（おたけくら）跡

御竹蔵は現江戸東京博物館あたりの広大な敷地でした。葛飾北斎の『新柳橋の白雨　御竹蔵の虹』に出てくる、にわか雨にあわてて橋の上を走る人々の様子は、約３０年後に歌川広重が描いた『大はしあたけの夕立』や『東海道五十三次』の『庄野』に受け継がれています。『大はしあたけの夕立』は、１９世紀半ば、欧州を席捲したジャポニズムの中でゴッホが模写したことでも有名です。



13 勝海舟生誕の碑

安政７年（1860年）、日米修好通商条約の批准書を交換するため、勝海舟が艦長として乗り込んだ咸臨丸。乗組員１０７名と鶏３０羽、豚２匹及びアヒル２０羽を乗せてサンフランシスコにたどり着くまで、３７日間の航海で一番苦労したのが水でした。約２トンの鉄製タンク２４個にためた真水は飲み水と料理だけに使い、風呂や洗濯などには雨水が使われました。



14 長谷川平蔵・遠山金四郎の住居跡

江戸時代、『鬼平』こと長谷川平蔵や『遠山の金さん』こと遠山金四郎が住んでいたのが、現在の墨田区・菊川。ここは本所上水の供給が不十分なため、水船で運搬されてくる水を水屋から買っていました。暑いさなかに湯水にでもなると、水屋は大繁盛したそうです。